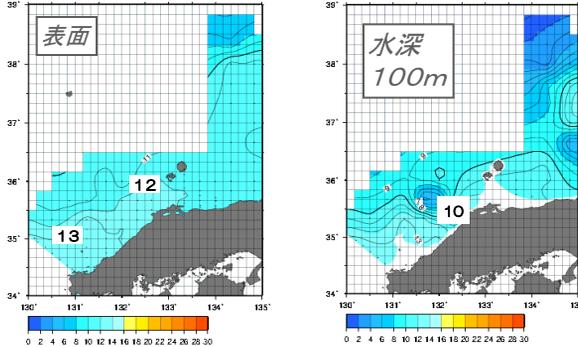
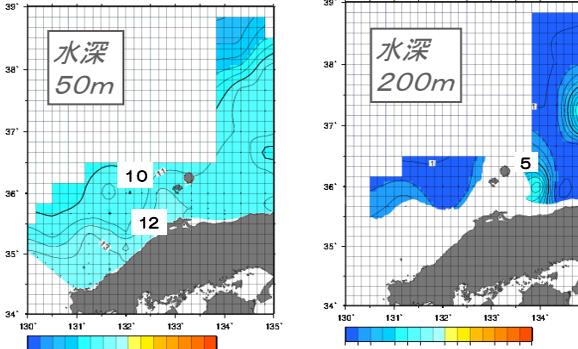


発行 鳥取県水産試験場 (電話:0859-45-4500)

試験船による海洋観測結果(3月上旬)



鳥取県沖と隠岐周辺海域は11℃前後で先月より1℃低下し、平年並の値となっています。
隠岐諸島周辺海域は11℃前後で、先月より1℃低下しました。



鳥取県沖と隠岐周辺海域は11℃前後で先月より1℃低下し、平年並の値となっています。
若狭沖の北緯37°00'付近に暖水塊があります。

3月上旬の水塊配置と対馬暖流



- ・島根沖冷水の沿岸への張り出し：浜田沖で沿岸域への張り出しが強い傾向にあります。
- ・沖合の対馬暖流：主流は、島根沖から隠岐北方海域を通り、東方へ流れています。

*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ（鳥取県水産試験場で検索してください）に詳しく掲載しています、ぜひご利用ください。

水産試験場

急潮予測モデルの公開について

○水産試験場（鳥取、京都、福井、石川、新潟）・鳥取県漁協・九州大学・日本海区水産研究所と共同で1週間後までの急潮を予測するシステムを開発し、2月26日からホームページで潮流予測モデルを公開することができるようになりました。

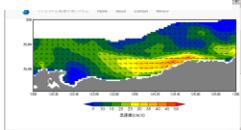
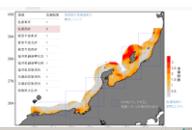
ホームページアドレス <http://kyucho.dc.affrc.go.jp/kyucho/>

使い方 パソコンやスマートフォンにアドレスを入力すると、図1が表示されます。色別で急潮指数が表示され、赤色で示される海域は急潮が発生する可能性が高い海域です。

・青線四角で囲まれた海域をクリックすると図2にその海域の1週間後までの潮流予測値が表示されます。

図1 海域毎の急潮指数

図2 鳥取沿岸域の潮流



(1) 急潮とは？

・台風や低気圧の通過等により発生する速い潮流のこと

(2) なぜ予測が必要か？

・定置網漁業の盛んな日本海中部では急潮の発生で定置網の流出やワイヤーが破断され年間数十億円の被害が発生したことがあります。
・本県でも急潮によって過去に定置網の漁具被害が生じており、急潮の予測が求められていました。

(3) その他の活用

・平常時にも予測潮流図が公開されていますので(図2)、稼働中の沿岸潮流パイ(酒津・御崎)の情報と合わせて使用することで釣りや刺し網漁業の出漁判断、休漁期間の減少が期待されます。また、赤潮の漂着予報にも役立つものと思われます。なお、図2は日本海新聞に掲載される「海の天気図」の予測精度を高めたものとなります。

(4) ご利用にあたって

・ご不明の点があれば水産試験場までお問い合わせください。今後は、運用を続けるとともに、可能な限り修正も加えていきたいと思っておりますので、感想やご意見頂けましたら幸いです。

平成26年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136

電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424

境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

★水産課からのお知らせ★

祝！第八十八光洋丸竣工



第八十八光洋丸(総トン数760トン)

東海漁業株式会社(境港市)所有の海外まき網船が平成27年3月に竣工しました。平成27年度から国の「もうかる漁業創設支援事業」による経営の合理化・安定化に向けた実証化事業を開始する予定です。遠く太平洋やインド洋赤道近くまで出漁し、カツオやキハダマグロ等を漁獲し、焼津、枕崎、山川などに水揚げする予定で、大きな期待が寄せられています。

平成27年度県当初予算が成立

浜の活力再生プランの実践・具体化の支援や魚食普及を推進する「浜に活！漁村の活力緊急再生プロジェクト」や省エネエンジン、低燃費型船底塗料等の導入による省エネルギー化を支援する「省エネ漁業推進事業」などの平成27年度当初予算が成立しました。支援内容をまとめた水産施策利用ガイドブックを各漁協等に配布しますので、ご利用ください。



■今月の漁業許可証更新情報

平成27年3月31日までに許可の更新が必要な漁業種類は以下のとおり

…固定式刺網一重網(中海・水道を除く)、自家用餌釣りびき網、潜水器

■遊漁船登録業者の皆様へ

遊漁船登録に保険期間等の変更があった時は、変更申請をお忘れなく

栽培漁業センター

第5回キジハタ(あこう)勉強会を開催しました。

キジハタ資源を増やし、より多く漁獲できるよう、3月4日に当センターにて、今年度の種苗生産(稚魚をつくり、育てること)や放流試験の成果をはじめ、キジハタの資源状況や来年度の試験について、漁業者や漁協関係者と勉強会を行いました。



勉強会の様子



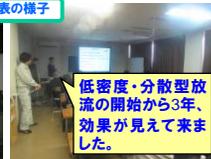
資源管理やH28年キジハタ事業放流についても、活発な意見交換が行われました。試験放流は今年が最後となりますが、種苗の更なる低コスト化と放流後の高生強化を目指して技術を改良して行きます。今後の成果にご期待ください。

ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。

成果発表の様子



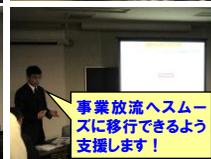
種苗の低コスト化・安定生産を目指します。



低密度・分散型放流の開始から3年、効果が見えてきました。



資源管理の成果が見えてきました！



事業放流へスムーズに移行できるよう支援します！